会　議　録（確定稿）

会議名称	第三次西東京市地域福祉活動計画（第 11 回）策定委員会
日　　時	平成 25 年 11 月 26 日（火）午後 7 時～9 時 20 分
会　　場	田無総合福祉センター２階視聴覚室
出 席 者	（策定委員） 熊田委員・内田委員・土方委員・髙橋委員・岩崎委員・陸名委員 田谷委員・白倉委員・三輪委員・伊佐委員・畠山委員・鵜澤委員・尾崎委員 （事務局） 栗山・齊藤・鈴木・鵜野・妻屋・長谷川・関根・利光・八阪・廣瀬 （コンサルタント） 姫野・渡邉
欠 席 者	髙梨委員・成田委員・小松委員・田中委員・事務局丸木
会議次第	＜次第＞ 1.　委員長挨拶 2.　資料確認 ＜議題＞ 1.　前回会議録確認 2.　今後の計画検討の流れ 3.　第三次地域福祉活動計画の体系(案)の確認 4.　具体的取り組みについて（グループワーク） 5.　策定委員にお願いするアンケートについて(案) 6.　その他 ・イベントでのアンケート進捗について ・第 12 回策定委員会について
配付資料	＜事前配付資料＞ 資料１：第 10 回策定委員会会議録（未定稿） 資料２：今後の検討の流れ 資料３：第三次地域福祉活動計画の体系（案） 資料４：グループワークの進め方について 資料５：第 11 回策定委員会グループワークの流れ 資料６：策定委員にお願いするアンケートについて ＜確定稿会議録＞：第 9 回策定委員会確定稿会議録 ＜当日配付資料＞ ・アンケート調査依頼票 ・第 11 回策定委員会グループワークメンバー表 ・ゆめこらぼ通信（NPO フェスティバル案内）

結　　論	◆決定事項 1.　前回会議録は、指摘事項を修正し、確定稿とする。 2.　グループワークで討議した各基本目標の「取り組み」については、事務局、委員長、PT 職員で体裁等を整えた上で、第 12 回策定委員会で提案する。 3.　策定委員にご協力いただくアンケートについては、イベント等でのアンケート用に準備した「アンケートをお願いするための説明文」を、追加的に委員へ送付する。
	＜次第＞ 事務局より、開会の挨拶に続いて、欠席委員の報告、実習生の紹介を行った。 **1.委員長挨拶** 委員長：今年の委員会は本日を含めて残り 2 回となったので、お力添えをいただきたい。本日は、実習生が見学に来ており、委員の方に質問することがあるかもしれないが、温かい目で見守っていただければと思う。 **2.資料確認** 事務局より、当日の資料確認が行われた。 ＜議題＞ **1.　前回会議録確認** 委員長：修正点があればご指摘いただきたい。 （委員からの異議無し。事務局から指摘の報告無し。） 委員長：他に指摘箇所がなければ、修正をもって確定稿とする。 **2.　基本目標について（提案）** 事務局より、資料 2 を用いて基本目標に関する説明を行った。 委員長：説明を受けて検討したいこと、確認したいと思う点がある場合、ご意見を願いしたい。 （委員からの意見は、特に無し） 委員長：もともと第 10 回策定委員会で検討する予定であった「具体的な取り組み」については予定日に検討ができなかったため、結果的にスケジュールが押している。3 月に成果物を完成させるという点に関しては、以前、委員の皆様よりご賛同いただいているため、ご協力いただければと思う。 **3.　第三次地域福祉活動計画の体系（案）** 事務局より、資料 3 を用いて第三次地域福祉活動計画の体系（案）について説明を行った。

	委員長：決定した5つの基本目標に関して、前回は「ポイント」を検討した。基本目標と「ポイント」に基づいて今後の作業を進めることとなる。基本目標はこの形で確定してよろしいか。委員の方に今一度確認していただきたい。 （委員からは特に無し。） 委員長：第10回では各基本目標の「ポイント」の検討に時間を費やしたという点から考えても、成果がこのように、ひとつの形となっている。第11回にあたる本日は、各基本目標に基づき「具体的な取り組み」に関するご意見をいただきたいと考えている。 **4. 具体的取り組みについて（グループワーク）** 事務局より、資料4を用いて今後のグループワークの進め方の提案を行うとともに、資料5を用いて第11回におけるグループワークの流れの説明を行った。また、グループワークで出された取り組みの文言に関しては、次回までに委員長、PT、事務局で体裁を整え、12月の策定委員会に提案させていただくことを説明した。 ［A班］ 事務局：基本目標1「お互いさまが活きているまち」からは、3つの具体的な取り組みアイディアが出された。1点目は「楽しく教えたり、教わったりするきっかけをつくる」ことである。これは、横のつながりを意識したことから出された意見である。趣味や特技等で横のつながりをお互いに作れたら、という思いが背景にある。2点目を「世代間交流のきっかけをつくる」としたが、これについては、縦のつながりを意識している。子育ての場面での世代間交流や、おじいちゃん、おばあちゃんと孫の間で交流の場面やきっかけをつくることが望ましいのではないか。3点目の「困った時に、自ら得た情報で動く」という具体的な取り組みアイディアについては、緊急時には手を挙げて助けを求める必要があるという点、近所で困った人の元へ足を運ぶ必要があるという点の両方から考えて、「情報がある」ということが重要なのではないかという意見があった。ご近所マップづくりも含めて、「得た情報」で動く事を通して、「助ける」、「助けられる」ことが「お互いさま」なのではないか、という議論の展開となった。 ［B班］ 委　員：基本目標2「みんな笑顔で暮らせるまち」については、具体的な取り組みアイディアを2点に絞った。1点目が「一緒に活動できる機会をつくる」という取り組み、2点目が「協働で取り組む」ことである。両者とも似通った言葉ではあるが、感覚として、「一緒に活動できる機会をつくる」ことは新しい動きを「つくり出す」ことであることに対して、「協働で取り組む」ことには、既にあるものを「活かす」というニュアンスが強い。この観点より、具体的な取り組みを2つに分けて考える方向とした。 委　員：基本目標3「「一歩前へ」を後押しできる情報があるまち」については、白熱した議論が交わされた。情報は既に多く存在するが、情報を取得できない人がいるということが課題である点から、「情報が自然と入って

くるしくみづくり」に取り組む必要があるのではないかという声があった。具体的な活動はその先にある。第一段階として情報が自然と入ってくることが重要であるという考えで一致したため、取り組みをこの１点とした。

［C 班］

事務局：基本目標 4「家族のようなつながりのあるまち」については、「誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる」ことと、「お世話焼きさんグループをつくる」ことが取り組みとして重要なのではないかという議論となった。「お世話焼きさん」が一人で活動することが本来は理想的ではある。ただ、現状として、一人でお世話焼きさんとして活動することが難しいため、グループを形成することを取り組みとして提案する。お世話焼きさんであることを目印としてバッチ等で示すことも考えられる。そのような人が地域に多くいる状態が望ましい。また、お世話焼きさんが多くいることに加え、誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所が必要であると考えた。それは、「行きたい」と思えるような場所であり、雰囲気のある居場所をつくることを取り組みとして挙げたい。「家族のようなつながりのあるまち」を目指すためには、上記２点の取り組みが必要なのではないかと考えた。

事務局：基本目標５「ひとりひとりがイキイキできるまち～輝こう！スキップしよう！～」については、基本目標がどのような状態を指すかという議論を行った。人がイキイキできるということは、「人からほめられること」や「必要とされること」によるものであり、結局のところ「認められること」に集約されるのではないかという考えが出された。「認められる」ということは「何かの記録を達成する」ということを意味するのではなく、日常の中でのちょっとしたことでも、お互いに認め合えることを指す。いじめ等の深刻な問題に関連して、いじめをしないように働きかける子どもがいれば、その子をたたえるという意味での「認める」ことがその一例である。ごく身近な事柄において、認められるような場をつくる必要があるのではないか。この取り組みを通して、自分が必要とされていること、あるいは人から認められていることへの気づきとなる。人は否定されると居場所がなくなるため、まずはそれを払拭するような場づくりが求められる。

事務局より、今後のイベント等でグループワーク成果の一部を提示する可能性があることを伝えた。

5.　策定委員にお願いするアンケートについて（案）

事務局より資料６及び当日資料「委員のみなさまへ」を用いて策定委員にお願いするアンケートに関する説明を行った。

委員長：アンケートについては、前回の策定委員会で提案された内容に基づき、事務局でそれらの提案をふまえた案を作成している。実際に使用する調査票は配付しているサイズよりも大きいのか。

事務局：今回は見本として縮小版を配付している。実際には A4 横の大きさを想定している。

	委員長：アンケートに関連して、お気づきの点等はあるか。 委　員：具体的な取り組みの記入が求められているが、回答者のご意見が「意味が分かりにくい」等であった場合は、回答をどのように扱うべきか。 事務局：「分からない」等のご意見も同様に記入していただきたい。また、必ずしも既述の基本目標に縛られる必要はない。別の案があれば欄外に記入していただきたいと考えている。集計の際に事務局で対応する予定である。そのため、書面にこだわらずにアンケートを行っていただければと思う。 委　員：具体的な取り組みを出していただくことは難しいと見込んでいたことから、質問をさせていただいた。 委員長：他にご意見があれば承りたい。自分からも質問が１点。アンケート個別票の「記入者」とは策定委員の名前を指すか。 事務局：その通りである。集計の際に記載されている内容を確認する場合に記入者の把握が必要となる。 委　員：なぜ、策定委員がアンケートを行うのか。 事務局：前回の策定委員会でイベント、ふれまち懇談会でのヒアリングを事務局より提案したところ、委員の中からは、その手法では限られた人にしか聞くことができないのでは、という声が挙がった。自分が保有するネットワークを活用することで、広い層に聞くことができるというご意見があったため、事務局より、このような形でアンケートのお願いをすることとなった。無理のない範囲でご協力いただきたい。 委　員：アンケートを行うことに異議はないが、実施するのであれば、策定期間に策定委員を中心に行うのではなく、地域福祉活動計画の実施期間においてアンケートを予定することがより適切なのではないか。前者の場合、内容が難しいため、効果があまり期待できないと考えられる。 委員長：おっしゃる通りだが、前回の策定員会では、市民に広く聞くことにより、地域福祉活動計画について考えるきっかけをつくることができるという、調査における狙いが挙がった。難しいという点については事実だが、発信の意味においてこのアンケートが有意義であると思われる。当然ながら、策定委員の中にはネットワークを持っていない方もいらっしゃるため、協力できないという選択肢を併せて用意している。また、意見は家族から求めることも可能である。策定委員会で出された意見とは別の観点からの意見が示されたら興味深いのではないかという期待から、アンケートを実施するという方向で考えている。これに加え、委員の意見にもあったように、計画の実施期間においてアクションリサーチのような手法をとる可能性もあるので、その点については今後委員のご意見等を深めていければと思う。 委　員：委員にお願いするアンケートを実施する場合、ある程度の説明が必要となる。可能であれば、各委員が個々のイメージで説明をする形ではなく、地域福祉活動計画の概要、策定の経緯や進捗、アンケート実施の目的等

	をまとめた紙面を事務局で用意してほしい。紙面により、各委員で同じレベルのアプローチができるのではないか。 事務局：現在実施中のイベント等のヒアリング調査には実習生用に A4 の紙面を用意している。内容として委員の想定と一致するのであれば、委員にお渡しすることは可能である。 委　員：イメージしていた内容と同様であるため、提示した紙面でお願いしたい。 委員長：案内文については委員のお手元に送付する方向で進める。策定委員にお願いするアンケートに関しては、大々的な調査は意図していない。むしろ、個々のネットワークの活用を通して、気軽に声をかけながらご意見を収集する形でご協力いただければ思う。 事務局：本日、紙媒体でアンケート用紙を用意しているので、ご協力いただける方には必要部数をお持ち帰りいただきたい。その際に、ご協力の可否欄にご記入をお願いしたい。アンケート用紙のデータ送信については後日行う。 委員長：初めての試みであるため、何とぞよろしくお願いしたい。 **6.　その他** 事務局より、イベント等でのアンケートに関する進捗を報告した。これまで開催されたイベントでの回収数と代表的な意見について一部紹介を行った。 委員長：以上、フォーマットに従って市民からご意見をいただいている状況であることが示された。アンケート結果の報告については次回行うのか。 事務局：イベント等でのアンケート、ふれまちでのヒアリング、市民懇談会の結果、策定委員からご協力いただいた調査を第 12 回策定委員会にて報告する予定である。資料については事前送付、または、場合によって当日配付を考えている。第 12 回の取り組みアイディアの検討をする際に、これらの結果と照合した上で必要に応じて反映できればと考えている。 委員長：アンケートでの回答を参照しながら取り組みアイディアを検討したい。併せて、基本目標を達成するためにアクションプランを組むことも追加的に考える必要がある。次回以降も委員のご協力をお願いしたい。 事務局より、今後のイベント等のスケジュールについて案内した。また、次回策定委員会の予定日の変更に関して再度通知を行った。 ・次回委員会日程：平成２５年１２月２６日（木）１９時～ 田無総合福祉センター３階第１会議室 以上